

## 組織目標評価報告書（令和5年度）

14

部局名：

薬学部

学域名：

医歯薬学域(薬)

部局長名：

狩野 光伸

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
<p>【教育】</p> <p>① 大学学部入学早期から「薬学研究入門(研究室滞在型授業)」を開講し大学院進学を視野に入れた研究活動への動機づけを図る。</p> <p>② 第2期薬学教育第三者評価(分野別認証評価)を踏まえ、PDCAを実施する。また、令和6年度コアカリキュラム改訂に伴い必要となる、医療系多職種連携教育について医療系他学部と協議し、教育体制の構築を進める。</p> <p>【入試関係】</p> <p>③ 薬・創両学科への志願者増に向けて、学部独自の高校訪問を継続するとともに、全学の高大連携活動に積極的に参加する。</p> <p>④ 課題意識を持つ志願者を選抜するために総合型選抜を利用し、志願者の思考力・判断力などを評価できるような作問を継続するとともに入学者動向調査を継続し、選抜方法の妥当性などの検討を継続する。</p> <p>【留学生】</p> <p>⑤ 留学生獲得に向けて、協定校・協定機関と情報交換を行うとともに、私費外国人留学生の受入れに向けて在学中の私費外国人留学生の就学支援を組織的に行う。</p>	(2-1) (4-1) (7-1)	<p>① 1年次22名、2年次16名の学生に対して、「薬学研究入門(研究室滞在型授業)」を開講し、研究活動への動機づけを図った。</p> <p>② 第2期薬学教育第三者評価(分野別認証評価)を踏まえたPDCAとして、CPおよびアセスメントプランを策定した。また、令和6年度コアカリキュラム改訂に伴い必要となる、医療系多職種連携教育について医療系他学部と協議し、教育体制の構築をおこなった。</p> <p>③ 全学の高大連携活動への参加に加えて、学部独自の高校訪問を継続実施した結果、特に創薬科学科の志願者が増加した。</p> <p>④ 総合型選抜で、志願者の思考力・判断力などを評価できるような出題を行った。また、それぞれの選抜区分に対して入学者動向調査を実施し、選抜方法の妥当性を確認した。</p> <p>⑤ 留学生獲得に向けて協定校・協定機関と情報交換を行うとともに、協定校であるハイフォン医科薬科大学からの国費外国人留学生(博士課程2名)に対する就学支援および私費外国人留学生(学部2名、博士前期課程3名)に対する就学支援を行なった。</p>
<b>②研究領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
<p>【地域社会との連携、社会貢献】</p> <p>① 地域の職能団体や学術団体と連携し、薬剤師や薬学関係職種就業者のリカレントや卒業教育を目的とする研修会を開催する。あわせて、広く一般市民や地域住民を対象に、医療や保健衛生にかかる知識を啓発するため、公開講座を開催する。</p> <p>② 来学者や地域の方々に自然と薬学とのかわりを理解してもらうため、各種講演会や地域開放型行事にあわせて附属薬用植物園の一般公開を実施する。</p> <p>③ 同窓生・卒業生・在校生の交流を促すため、岡山大学ホームカミングデイその他の行事にあわせ、来学者が気軽に会える機会を設ける。</p> <p>④ 連携協定を締結した瀬戸内市において、薬物乱用防止などの教育や地域防災で協力する。</p> <p>【国際交流・協力】</p> <p>⑤ 成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)、サン・カルロス大学(フィリピン)、ウエイン州立大学(米国)との連携をさらに深めるとともに、交流協定(新規)締結に向けてバンメート大学(ベトナム)との協議を進める。</p>	(6-1) (7-1)	<p>① 岡山県薬剤師会の協力を得て公開講座「現代の薬学」を7月に開催した。薬剤師、医療関係者及び一般の方計49名の参加があり、各講義では活発な質疑応答が行われた。リカレントや卒業教育のための有意義な機会を設けることができた。</p> <p>② 高校生および一般向けに、公開講演会および薬用植物園一般公開を6月に開催した。129名の来学とオンライン形式で92名の参加があった。多くの方に薬学に触れる機会を提供できた。</p> <p>③ ホームカミングデイの行事として、薬学部同窓会主催のシンポジウムにあわせ、薬用植物園の一般公開を行った。多くの来園があり、閉園時間を延長して対応した。卒業生や同窓生の方々に、母校を懐かしみながら交流する機会を提供することができた。</p> <p>④ 連携協定を締結した瀬戸内市において、薬物乱用防止などの教育や地域防災で協力する予定であったが、担当教員の突然の逝去のため、計画の見直しが必要となり、瀬戸内市とコンタクトを取りながら、協定に基づき、薬学部として協力できる取組について、検討する予定である。</p> <p>⑤ ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)への訪問および同大学学長らの本学訪問時の交流、サン・カルロス大学(フィリピン)との国際交流協定更新及びさくらサイエンスプログラムを利用した招聘、ウエイン州立大学(米国)との国際交流協定締結および同大学薬学系大学院長の本学訪問時の交流、カセサート大学附属属高校(タイ)の本学訪問時の交流などを通して情報交換を行ない連携を深めた。</p>
<b>④管理運営領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
<p>【部局組織の活性化】</p> <p>① 部局全体の活性化、効率化を図るため、部局内での情報共有や議論において、ICTやDXを活用し、関連他部局との協力も含めて適切な部局運営を行う。</p> <p>【ダイバーシティの推進】</p> <p>② 令和8年度末までに女性教員割合25%を達成するために、女性専用公募や女性優先公募などの導入を議論し、研究・教育の場で活躍しやすい環境を作る等、積極的に女性教員の獲得を行い、目標値の達成を目指す。</p> <p>【効率的・戦略的な予算配分・執行】</p> <p>③ 部局の予算がひっ迫しているため、省エネ意識の喚起等により経費節減を行い、各執行状況について見直し、引き続きより効果的な予算執行を目指すとともに、積極的に外部資金の獲得を目指す。</p> <p>【安全衛生に対する配慮】</p> <p>④ 職員の労働安全衛生に配慮するため、適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進する。</p>	(11-1) (13-1) (15-1)	<p>① 各種会議のオンライン化、配布資料のペーパーレス化を進めた。また教員選考において電子応募を採用し、公募状況・応募者の内容をリアルタイムに審査委員会に提供することができ、業績審査をスムーズに行うことができた。</p> <p>② 女性教員割合を増やすため、教授職の女性限定公募の実施や別の教授採用の案件においても、女性教員候補者ヒアリングを進めるなど、積極的に女性教員の選考を行った。</p> <p>③ 毎月、研究室等で使用したエアコン稼働実績(電気・ガス)を各教員へ通知し、省エネ意識の喚起を行っている。さらに、薬学部では、8/5～8/20を夏季省エネ推進期間と定め、その期間は薬学部共同利用機器の稼働停止、大学院生は研究室の使用を控える。また、12/28を振替休暇等を活用して閉庁とするなど、省エネに対する独自の取組を実施した結果、電気・ガス共に前年度の使用量を削減できた。部局予算について、物価及び光熱費の高騰等の影響から当初予算配分では、これまでの学部長裁量及び共通経費等を見直し減額した。予算減額に伴い、これまでの設備更新を見直したことで約300万円(約4年単年で更新 △75万円減/年)を削減できた。</p> <p>④ 適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進した。特に毎月の教員会議において全学の事件事故を報告し、注意喚起に努めた。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。